

キリスト教文化センターでは、同志社を見つめ、そして自らを省みる2泊3日のプログラム「熊本キャンパス ～ Doshisha Spirit Tour ～」を2019年9月11日から13日に実施しました。今年で9回目となる熊本キャンパスでは、創設期の同志社に学び、新島襄とともに同志社を支えた「熊本バンド」の足跡をたどるだけでなく、前回に引き続き、2016年の熊本を中心とする九州地方での震災を覚え、非常に大きな被害を受けた益城町東無田地区を訪ね、地震発生時からの住民主体の様々な取り組みに関するお話を伺い、理解を深める機会となりました。キャンパスに参加した学生7名の感想を紹介します。

◆函館キャンパスへの参加をきっかけに、今回の熊本キャンパスへの参加を決めた。大学の歴史を知らずに4年間を過ごすことはもったいないと思う。

◆授業で学んだ同志社のルーツについて学びを一層深めること、現在まで受け継がれてきた精神にふれることをこの旅の目標としていたが、実際に熊本を訪れることによって、たとえ家族との仲を違えようとも信仰を守った熊本バンドの青年たちの熱意を強く感じた。また震災の被害にあった方々の生の声を聴けたことも、大変印象深かった。

◆同志社の歴史について、いま一度学び直せる機会を今回のキャンパスでも



熊本草葉町教会訪問

つことができ、同志社の学生としての自覚と将来への想いに胸を膨らませた。このプログラムに参加できて良かったと思うし、この経験が今後の人生に役立つことを願い、大切な思い出として胸にしまっておきたい。

い多くの学生に、このキャンパスのことをもっと知ってもらいたい。そのために今回学んだことを忘れずに発信していきたい。



奉教之碑（花岡山）

◆益城町東無田地区でのフィールドワークで、実際に被災した方からお話を伺い、インターネット動画を通じてPRを行うこと、メディアも巻き込んで行政と交渉することなど、復興のための計画が非常に戦略的に実践されていると強く感じた。災害時以外における行動指針としても見習うべきモデルになり、非常に貴重な経験だった。

◆授業で同志社建学当時のことについて学んだ時には、身近なこととしてとらえることができなかったが、今回のこのキャンパスを機に、より近いものとして学びを深めていければと思う。校友会のみなさんとの交流会は、非常に新鮮で楽しいものだった。同志社という学び舎について知らない

◆普段は話す機会の少ない、他の学部・学年の学生と大いに交流することができた。同志社は、様々な人の理解、協力を得て、長い歴史の中で築きあげられた学校だということをこのキャンパスで再認識し、改めて、同志社の学生であることに強い誇りを感じた。同志社の学生にしか体験することのできない貴重なプログラムなので、少しでも興味があるならば、絶対に参加するべき！

お知らせ

①クリスマス・イルミネーション点灯式 今出川校地

11月21日(木) 17:15～17:45
西門北側サンクタスコートヒマラヤスギ周辺

京田辺校地

12月 2日(月) 16:45～17:15

ローム記念館前

②アドベント礼拝

12月3日(火)～12月20日(金)の間のチャペル・アワー
アドベントとは、イエス・キリストの降誕を待ち望む準備期間です。アドベント・クランツのキャンドルを灯し、一緒にクリスマスの到来を待ちましょう。

③第30回同志社京田辺クリスマス燭火讃美礼拝

キャンドルの光のもと、ともにクリスマスの礼拝を捧げましょう。

日時:12月14日(土) 15:30 開場 16:00 開始 17:30 終了予定
会場:同志社新島記念講堂

(京田辺校地 同志社女子大学構内)

④クリスマス・イブ礼拝

京田辺校地

日時:12月24日(火) 16:40～17:30

会場:同志社京田辺会堂 言館(KOTOBAKAN) 礼拝堂

今出川校地

日時:12月24日(火) 18:30～20:00

会場:同志社礼拝堂

※同志社教会のクリスマス・イブ礼拝と共同開催

⑤パイプオルガン講座発表会

オープン・プログラムでパイプオルガンを学ぶ受講生の発表会です。

今出川校地

日時:12月12日(木) 18:30～19:30

会場:クラーク・チャペル

京田辺校地

日時:12月16日(月) 10:00～10:35

会場:同志社京田辺会堂 言館(KOTOBAKAN) 礼拝堂

*各行事の詳細は、HP またはキリスト教文化センター
掲示板のポスター等をご覧ください。

オリジナルホームページ <http://www.christian-center.jp/>



チャペル・アワー案内

2019年11月19日

No.246

同志社大学

キリスト教文化センター

京田辺
0774-65-7370

今出川
075-251-3320

HP
<http://www.christian-center.jp/>

椿のリース

イラスト 中谷隆志

秋学期チャペル・アワー統一テーマ

「受けるよりは与える方が幸いである」

(使徒言行録20章35節より)

甥が3歳くらいの時、食べていたお菓子を「おっちゃんに頂戴!」とお願いすると、悩んだ末に一つまみ分けてくれたことがあります。彼なりに考え、葛藤の中で分けてくれたのだと思います。彼は、お菓子が減った寂しさもあったかもしれないですが、分けることによって得られる喜びもなんとなく感じてくれたのではないかと思います。一方、世の中を見ますと、大人たちが分けることなく奪い合う現実が後を絶ちません。

校祖・新島襄の葬儀に際して、新島の友人・勝海舟が、「彼らは世より取らんとす、我らは世に与えんと欲す」という言葉を幟に記しました。時は、「富国強兵」のスローガンの下に、アジアへの軍事的進出を画策する時代でありました。アメリカでキリスト教の教えに学んだ新島襄は、「奪う」のではなく、互いに尊重しあう、「与える」教育を行う同志社を設立しました。同志社には設立当初から「受けるよりは与える方が幸いである」というキリスト教の精神が脈々と受け継がれています。同志社で学ぶ皆さんが、分けること、与えることに喜びを見いだすことができますように。

(キリスト教文化センターチャプレン)

日本キリスト教団上鳥羽教会牧師 月下 星志



チャペル・アワー

◎チャペル・アワーは、どなたでもご自由にご参加いただけるプログラムです。
◎当日の奨励題など詳細につきましては、ホームページや学内掲示板をご覧ください。

スケジュール（秋学期後半）

京田辺校地

火曜ランチタイム・チャペル・アワー	
同志社京田辺会堂 言館礼拝堂 毎火曜日12時35分～13時	
月/日	奨励者
11/19	キリスト教文化センター准教授 三木メイ
12/3	日本キリスト教団桂教会牧師 アドベント礼拝 熊谷沙蘭
12/10	日本キリスト教団石橋教会牧師 アドベント礼拝 仲程愛美
12/17	日本キリスト教団岡本教会牧師 アドベント礼拝 栗原宏介
1/7	日本キリスト教団石橋教会牧師 仲程愛美
1/14	日本キリスト教団千里聖愛教会牧師 川江友二
1/21	キリスト教文化センター准教授 三木メイ

水曜ランチタイム・チャペル・アワー

同志社京田辺会堂 言館礼拝堂 毎水曜日12時35分～13時	
月/日	奨励者
11/20	創立記念礼拝※ 心理学部教授 内山伊知郎
12/4	同志社国際学院初等部・国際部チャプレン アドベント礼拝 石川眞弓
12/11	心理学部教授 青山謙二郎 アドベント礼拝
12/18	日本キリスト教団醍醐教会牧師 アドベント礼拝 津田一夫
1/8	同志社大学名誉教授 鈴木直人
1/15	頤栄短期大学准教授 森田喜基
1/22	キリスト教文化センター准教授 三木メイ

金曜ランチタイム・チャペル・アワー

同志社京田辺会堂 言館礼拝堂 毎金曜日12時35分～13時	
月/日	奨励者
11/22	日本キリスト教団平安教会牧師 小笠原純
12/6	日本キリスト教団豊中教会牧師 アドベント礼拝 山崎道子
12/13	日本キリスト教団京都葵教会牧師 アドベント礼拝 内山友也
12/20	日本キリスト教団上鳥羽教会牧師 アドベント礼拝 月下星志
1/10	キリスト教文化センター教授 越川弘英
1/17	日本キリスト教団平安教会牧師 小笠原純
1/24	日本キリスト教団豊中教会牧師 山崎道子

今出川校地

火曜チャペル・アワー	
神学館礼拝堂 毎火曜日17時30分～18時10分	
月/日	奨励者
11/19	創立記念礼拝 同志社幼稚園長 北川雅章
12/3	学生企画 アドベント礼拝
12/10	学生企画 アドベント礼拝
12/17	アイトム株式会社ラフフィックスデザイナー アドベント礼拝 チヨンイングン
1/7	音楽礼拝（同志社教職員合唱団） 神学研究科生 吉居美緒
1/14	日本キリスト教団芦屋浜教会牧師 塚本潤一
1/21	経済学部准教授 岸基史

水曜チャペル・アワー

クラーク・チャペル 毎水曜日10時45分～11時30分	
月/日	奨励者
11/20	創立記念礼拝※ 副学長 グレゴリー・プール
12/4	一神教学際研究センター特別研究員 アドベント礼拝 北村徹
12/11	日本キリスト教団京都九太町教会副牧師 アドベント礼拝 藤浪敦子
12/18	アシユラムセンター主幹牧師 アドベント礼拝 榎本恵
1/8	日本キリスト教団南大阪教会牧師 尾島信之
1/15	商学部教授 百合野正博
1/22	法学部教授 村田晃嗣

金曜ランチタイム・チャペル・アワー

同志社礼拝堂 毎金曜日12時35分～13時	
月/日	奨励者
11/22	神学部長 越後屋朗
12/6	キリスト教文化センター教授 アドベント礼拝 越川弘英
12/13	日本キリスト教団同志社教会牧師 アドベント礼拝 望月修治
12/20	日本キリスト教団岡本教会牧師 アドベント礼拝 栗原宏介
1/10	日本キリスト教団高の原教会牧師 竹ヶ原政輝
1/17	神学部長 越後屋朗
1/24	キリスト教文化センター教授 越川弘英

エッセイ

『小さき者へのまなざし』

風間 規男

私の大好きな祈りに「フランシスコの平和の祈り」というものがあります。聖フランシスコは、12世紀から13世紀にかけて生きた人で、清貧の中、神と真つすぐに向き合った信仰生活を貫き、当時の墮落したカトリック教会に大きな影響を与えた人物です。今のローマ教皇も彼の名前を受け継いでいます。

フランシスコの祈りの後半部分を紹介しましょう。

「ああ、主よ、慰められるよりも慰める者としてください。

理解されるよりも理解する者に、愛されるよりも愛する者に。それは、わたしたちが、自ら与えることによって受け、許すことによって赦され、自分のからだをささげて死ぬことによってとこしえの命を得ることができるからです」。

私は、この祈りを書道家の義母に書いてもらい、額に入れて研究室に掲げています。ここにキリスト教の最も大切な教えがあると思っています。

イエス・キリストは、姦通した女にやさしい言葉をかけ、ハensen病や皮膚病を患っている人々を癒し、当時差別されていた徴税人のマタイを弟子のひとりに加えました。聖書を読むと、そこかしこに、弱き者に対するイエスの優しいまなざしをみることができます。キリスト教は、そういう弱き者、小さき者のための宗教です。

日々の暮らしの中で、自分が取るに足らないちっぽけな存在だと感じる時があります。そのような時は、フランシスコの平和の祈りを唱えます。慰められることばかり、愛されることばかりを期待して、自分からは何も与えていないのではないか。そう問いかけられている気がします。

弱い人間だからこそ、人の苦しみや辛さを理解することができはらずです。自分が小さき者だからこそ、もっと大きな苦難の中にある人々に目を向けることができるはずなのです。

見返りを求めずに与え続けるのは難しく、人間の基本的な欲求に反することなのかもしれません。しかし、それだからこそ、キリスト教を信仰する者は、与え続けることを理想の生き方としているのです。

（かざま・のりおⅡ政策学部教授）

※京田辺校地の11／20創立記念礼拝は12時30分から開始します。
※今出川校地の11／20創立記念礼拝の奨励は英語で行います。
◎12／24はクリスマス・イブ礼拝があるため、両校地ともチャペル・アワーは行いません。詳細は裏面の「お知らせ」をご覧ください。